

熊本県立八代工業高等学校（全日制） 平成 2 6 年度学校評価表

1 学校教育目標						
「学力の定着」、「規範意識の育成」、「進路保障」、「人間尊重の精神」を基底に置き、校訓「誠実」を核として、知力・体力・人間力を磨き、未来を拓く主体性のある生徒を育成することを目指すとともに工業高校としての使命を果たし、地域の信頼と期待に応える学校づくりに努める。 ①教科指導等の充実 ②生徒指導の充実 ③進路指導の充実 ④環境問題をはじめ、公共の精神を養う態度の育成 ⑤部活動等の充実 ⑥地域社会に期待される学校づくりの推進 ⑦特別支援教育の充実						
2 本年度の重点目標						
①研究授業の実施。生徒の能力、実態に応じた授業の工夫と指導。自宅学習時間の確保への工夫。 ②問題行動の予防に努める。いじめの撲滅。頭髮・服装の身だしなみの徹底と挨拶の励行。欠席・遅刻のゼロ運動。交通ルールへの遵守。 ③面談を通しての自己理解の推進と早期目標の決定。難易度の高い企業、公務員等への確実な支援と高い合格率の維持。国公立大学への受験者の早期発掘と計画的指導。生徒、保護者への的確な進路情報の提供。 ④学校版 I S O への取組推進。学校環境美化と校内清掃の徹底。 ⑤学校活性化の一翼を担う。メリハリある練習を行い、文武両道を目指す。 ⑥ジュニアマイスターの倍増計画。工業関係各種大会への積極的参加と成績向上への計画と対策。広報活動の強化。生徒募集定員確保対策と実践。 ⑦保健、安全教育の充実。人権教育の推進。特別支援教育の活動強化。中学校との連携。保護者との連携強化。						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校目標及び重点目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	教職員、生徒・保護者等へ説明し、教職員・生徒には90%、保護者には80%以上の認知度を目指す	職員会議、全校集会、PTA総会、学年保護者会、地区懇談会、三者面談、学校新聞等で本年度教育方針等の説明	B	アンケートで本校の教育方針を理解していると答えた保護者は92%生徒は85%、教職員の認知度は97%であった。概ね浸透しているが、校内の見やすい所に掲げると更なる周知徹底が図れると思われる。
	学校マネジメントの充実・強化(組織的活動の確立)	各部、各科の目標達成に向けたマネジメントを確立	各部・各科における自己の役割認識と組織体の一員としての自覚と使命感を身に付ける	定期的に各部、各科の連絡報告会を開催し、目標達成に向けた進捗状況と今後の対策の確認	B	各科の連絡会は週時間割に組み込んであり定期的に行われたが、各部の連絡会は組み込まず、定期的に行えなかった分掌部もある。各学期の初めに時間を確保する必要がある。
	教育環境（施設・設備）の充実と積極的な活用	実践的で教育効果があがる教育環境整備	実習内容の充実と高度化に向けた施設設備を検討する	産業社会の施設設備の現状を調査させる。企業での研修の実施	B	ネット検索やソフトが軽快に動かず授業に支障のあるパソコンもある。各科の継続的な更新要求を行う。
		働きやすい環境整備	週1回、身の回りの環境整備を実施	職員室・各管理室の清掃・整理整頓の徹底	B	職員室の整理整頓は昨年よりよくなったが、身の回りの整理は個人差が大きい。
		現有する施設・設備の活用と点検	施設・設備の安全点検と整理整頓の徹底	学期毎に施設設備の安全点検簿の提出	B	学期ごとの安全点検はできていた。
	安心・安全・満足を目指す教育活動の徹底と開かれた学校づくり及び広報活動の充実	PTA総会、体育祭、文化祭へのPTA・中学生・地域住民の参加促進	PTA総会は出席率90%以上、文化祭には300人以上の来客者数を実現する	教務部、各学科、進路指導部、生徒会等を中心とした広報活動（HPの充実と学校便りの送付等）と積極的マスコミ活用	B	PTA総会が幾つかの中学校の運動会と重なったため、昨年度より委任状が多かった。次年度の総会は日程を検討する必要がある。体育祭、文化祭は70周年記念でもあり大いに賑わった。
学力向上	教職員の授業力向上（わかる授業の実践）	生徒の実態把握と意欲を引き出す授業の創造	基礎学力の向上と学習習慣の定着	年間指導計画の実施状況を学期、月毎にチェック 学力不足の生徒への補習の実施 朝・放課後を利用した細やかな指導の徹底	B	朝課外は実施出来ているが、資格取得学習を行うこともあり、基礎学力向上だけに時間が確保できない。放課後も部活動があるため、補習が必要な生徒への手当がでにくい現状がある。
			各教科の中堅教員の研究授業の実施	生徒アンケート調査、「生徒による授業評価」の実施による実態調査 各教科最低1回の研究授業を行う	B	生徒アンケートを実施し、授業に反映させている。研究授業については各科とも概ね実施できているが、研究授業への参加者が少ない状況がある。
	専門性を深める教科外活動の実践	専門性深化に向け、難易度の高い資格取得に挑戦	資格取得の全国上位校入り(各科10人以上のジュニアマイスター獲得) 生徒研究発表の入賞	各科・学年部が連携し計画的、継続的な指導 朝・放課後・長期休業中を利用した資格・検定課外の実施 大会出場者の徹底指導	B	ジュニアマイスター獲得者は昨年度より減少した。朝課外だけでは限界があり放課後の利用がしにくく、課外をする時間の確保が必要となっている。
	「ものづくりは人づくり」の充実	創造性を育てる製品づくり、基本技術を習得させる。 施設・情報等の相互乗入による共有化	「ものづくりコンテスト」「マイコンカーラリー」「アイデアロボットコンテスト」等の各種コンテスト入賞	指導者の技術力向上に向けた研修の実施 必要に応じて、学科を超えた指導	B	県高校生ものづくりコンテストは、工業化学科が銅賞受賞。つまようじタワー耐震コンテストはインテリア科が2年連続優勝となった。アイデアロボットは難易度が高くなり、各工業科で得意なところを分担する取組みが求められている。また、指導者の研修も必要である。
			課題研究の充実	生徒の興味関心に合った研究 継続型課題研究の検討	A	各科とも課題研究に熱心に取り組んでおり、各科の課題研究発表会ではよい発表ができていた。
キ（進路ア指導育）	キャリア教育の充実と強化	生徒・保護者への的確な進路情報の提供と目的意識の啓発	進路だよりの充実	進路だよりの定期的発行	B	進学通信は5号まで発行。進路通信は2号のみ発行した。
			高度専門技術者・企業人による進路ガイダンスを実施する	学年毎の啓発活動の実施(学年進路講話等) 保護者向け進路講話の実施 インターンシップ、地場企業研究の実施	A	各学年の保護者会で進路講演会を行い進路情報の発信はできた。2年生のインターンシップは実施後の生徒アンケートで進路に役に立ったという感想がほとんどであった。実施企業からも本校生はよく頑張っているとの評価を得た。
	高レベルの進路実現（仲ばす教育の実現）	きめ細やかな進路相談と学習指導 生徒の希望に応える進路指導体制の確立	第1希望の就職内定率90%以上 難易度の高い企業、大学等への合格者増	進路部、学年、各教科の連携によるきめ細やかな指導 学年毎の計画的な進路指導計画の作成と実践 就職指導体制(課外等)の実施 進学指導体制(課外等)の実施 公務員指導体制(課外等)の実施 個別指導体制の充実各種模試(学校独自を含む)の実施 積極的な情報収集と有用な参考資料の作成・提供	B	3年生の夏季休業中の自主学習は今年も実施でき、第1希望の就職内定率は83%であったが難関企業にも多数内定し、進路と3学年の取り組みの成果は現れた。 国公立大学への合格者は、大分大学2人、愛媛大学1人、県立大2人であった。公務員の合格は昨年より大きく減少した。1、2年の公務員希望者も減っており、公務員指導の在り方も検討が必要である。校内ネットワークを活用した面接情報や求人票、試験案内など情報の共有化ができた。
生徒指導	社会で必要とされる心構えと基本的生活習慣の確立	・時間、期限、約束、ルールが守られているか ・心のこもった挨拶や言葉遣い、礼儀、マナー、制服の着こなしができているか ・情報モラルが身に付いているか	・笑顔で明るい挨拶 ・高校生として相応しい言葉遣い、礼儀、マナーを身に付けさせる ・清潔感のある服装、着こなしを身につける ・欠席遅刻をなくす ・情報モラルの育成	・挨拶指導 ・職員による校門指導 ・交通安全や携帯電話教室の実施 ・毎月の服装検査と日常的な指導 ・PTAや地域との連携した生徒指導 ・生徒会活動を通しての生徒指導	B	挨拶については概ねほとんどの生徒が自ら出来るようになった。PTAとの挨拶運動は3日間であったが本年も実施できた。毎月1回の服装指導により、常に高校生らしい髪形と服装が維持できている。交通安全については重大な交通事故は起こっていないが、自転車のマナーの問題で近隣からの苦情が数件寄せられた。自転車の乗り方について常に指導していく必要がある。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	校訓「誠実」と友愛精神の涵養	・誠実な言動ができるか。 ・自他の尊厳と生命を尊重できているか。 ・母校愛が育まれているか	・自他に対し危害や損害を与える行為をしない ・過ちを素直に認め、課題や問題に対して誠実に対応する ・校歌斉唱の充実	・日々の教育活動全般を通して、すべての教職員が、「認め・ほめ・励まし・伸ばす」を念頭に、毅然とした態度で生徒に向き合う ・始終業式や卒業式等における校歌指導を充実させる	B	生徒は全体的に落ち着いており集会での態度もよい。問題行動を起こした生徒の数も昨年より半減した。しかし、問題行動をとる生徒の中には校訓「誠実」の精神が希薄なものもいる。校歌斉唱は、ほとんどの生徒が大きな声で歌っている。
	問題行動や悩みを持つ生徒への対応	・不適応行動を起こした生徒や不登校生徒の指導や支援	・課題を抱えた生徒への組織的な支援体制の確立 ・特別指導の充実	・組織的な指導を実践する ・特別指導計画の作成 ・ＳＳＷやＳＣ、教育相談、特別支援教育の活用を組織的に進める	B	ＳＳＷやＳＣの配置のおかげで、生徒の悩みにより深く対応できるようになった。課題を抱えた生徒は多く、教育相談の重要性が年々高まっている。問題行動の生徒でＳＣに繋がった例もあった。
人権教育の推進	人権教育推進体制及び人権教育の充実	全教職員の人権教育実践力の向上	年１回以上の校外研修会参加と校内研修会を実施する	人権教育研修会等への参加 人権教育推進係で企画立案し開催する	B	全職員が年１回は校外研修会に参加できた。校内研修会は学期に１回は実施した。
	全ての教育活動を活用した人権意識	人権教育の内容の充実	各学年毎の人権教育に係る年間計画の作成	人権教育推進委員会で統一ＬＨＲ指導案の原案を作成する	B	１学期のＬＨＲは台風による授業打ち切りで中止したが、２学期は平和学習、３学期は１年がＤＶ防止、２年が就職差別の内容で実施した。
			年１回、人権に係る講演を実施する	人権教育推進委員会での企画立案	B	本年度は、講演会でなく２学期に平和教育のビデオ視聴を行った。
	命を大切にすることを育む指導	命を大切にすること、自他を尊重すること、お互いを思いやる言葉や態度を育成できたか	いじめ、暴力の事案０を目指す。いじめアンケートでいじめを受けたことがある生徒を０にする。	・保健、家庭科等の教科やＬＨＲで「命を大切にすることを育む」授業を行う。 ・命をテーマにした講演会を学期に１回行う。	B	１学年は、コミュニケーションスキルアップＬＨＲを実施し、お互いのことを理解したり、２学年は朝の合同ＳＨＲを実施し、副担任の講話を行った。
いじめの防止等	いじめの根絶	・いじめを生まない集団の雰囲気が作られているか ・いじめの初期段階において、早期発見がなされていたか ・いじめが生じた際、適切に対応できたか	・生徒会活動等を通して、いじめを生まない雰囲気をつくる。 ・生徒と教師の信頼関係をつくり、生徒がいつでも相談できる環境を整える。 ・いじめが起きた際、適切に対応する。	・標語やポスターの募集、いじめの撲滅宣言を実施 ・日頃から「認め・ほめ・励まし・伸ばす」教育を実践し、生徒の人権に配慮した教育実践 ・本校いじめ防止基本方針に則りいじめ根絶に対する取り組みを実施	B	５月には本校ＳＣによるいじめ防止講座を実施した。６月には生徒会主催で「いじめ根絶標語」を募集した。また、いじめをなくす行動宣言を作成しＮＨＫに公募し、ホームページに掲載された。宣言は教室棟の各階廊下に掲示している。 いじめアンケートを５月８日に実施し、いじめの早期発見に努めている。これについては生徒の７８％が効果があると答えている。次年度も複数回実施したい。
特色ある学校づくり	開かれた学校づくりの充実	教育内容の魅力化と中学生、保護者、地域社会への教育成果の周知徹底	ものづくり講習会や開放講座等の実施における実施時期、参加者数の改善充実を図る	中学生体験入学の実施 学科毎のものづくり講座の実施 ホームページでの参加募集など、広報活動の工夫を図る	B	中学生体験入学については例年通りの参加者数があり、進路選択の一助となったとの感想を述べている。ものづくり講習会を各科実施したが参加者は少ない。講座内容、実施時期の検討と小中学校に向けての広報活動をもっと行いたい。
			様々な教育成果や学校行事の実施状況を年２回中学校等に紹介する	学校情報の広報誌制作 ホームページの充実 地域の要望にこたえるオンライン製品の製作	B	ホームページを一新したが、各部各科や各部活動で更新状況にばらつきがある。個別に対応するのは限度があるので、次年度はネットワーク活用委員も含めてホームページの更新委員会を立ち上げたい。
	部活動による社会を逞しく生き抜く心身の育成	「日本一の練習」に取り組む（熱意、挑戦、継続）	各種コンテスト入賞	顧問と生徒・保護者との連携（信頼と協力）による指導強化	B	写真部が各フォトコンテストで入賞、吹奏楽部が県コンクールＢパートで金賞。
			部活動各種大会の入賞（ベスト４以上の実現）	顧問の指導力向上（外部研修含む）	A	陸上部、水泳部、卓球部が全国大会、水泳部、空手道部、弓道部、ソフトボール部が九州大会に出場した。男子バレーボール部が県ベスト４に入った。
保健安全環境の管理			生徒達のやる気の喚起	大会内容や入賞結果の報告	B	入賞者は集会で表彰している。表彰式・選手推戴式の回数も多い。
	校内環境整備の充実	整理整頓の意義と意識を高める 教室、実習棟、部室等の管理意識の高揚 教職員が率先垂範し、環境に対する責任ある態度	各学期毎の校内美化週間を実施する 最低年１回の安全点検を実施する	生徒会、管理部主催による美化コンクールの実施 職員による危険箇所等の安全点検の実施	B	定期的に美化コンクールを実施できたが教室以外の美化に対する意識が少ない。
			学校版環境ＩＳＯに取り組む	省資源、リサイクルの徹底	B	定期的に安全点検を実施しているが、点検に対しての意識に差が見られた。
	心身ともに健康な学校生活の実現	健康診断結果等をもとにした日常的な健康管理の充実と健康	心身の健康に悩みを持つ生徒の早期発見と支援保健（病気予防対策等）啓発	使用電力と水道の細やかな節減 排出ごみの削減、ごみ分別の徹底	B	各場所から出る排出ゴミは、部署によっては少なくなっているところもあるが全体としては増加している。ゴミを資源としてとらえる意識をさらに徹底する必要がある。また、ゴミ自身を出さない工夫も必要である。
特別支援教育	特別支援教育の充実	個に応じた指導の充実	必要な生徒の個別の教育支援計画、指導計画を作成し、適切な支援を実践する	生徒、保護者、学校の連携の徹底 外部講師による講話の実施 保健委員会の開催 生徒情報の共有化を図る 毎月保健だよりの発行	A	７月に性教育講演会、１月に薬物乱用防止講演会を実施した。保健だよりを定期的に発行し、疾病の予防を生徒・保護者に呼びかけている。インフルエンザの罹患者はいたもののクラス内で広がることは無かった。
		発達障がいや悩みのある生徒の情報の共有化と実践	月１回は科会や学年会で情報交換会を実施する 全職員による適切な対応策を徹底研究	学科、学年を中心としながら全職員の共通理解のもとで支援を行う 家庭と学校との連携強化 療育機関との連携	B	学年会では定期的に情報交換ができています。ＳＳＷやＳＣと担任との繋ぎも養護教諭を介してできており、個別の対応は昨年度よりできている。
				生徒理解研修会の実施 ＳＳＷやＳＣ等の活用及び専門家による校内職員研修会を実施する	B	各学年、保健室より情報を得て夏季休業中に生徒理解研修を実施した。特別支援対象生徒の情報交換会も数回実施している。